

巻頭言

高松赤十字病院紀要第5巻の発刊にあたって

高松赤十字病院 院長 網谷 良一

笠木前院長の長年の思いが結実して、平成25年に「高松赤十字病院紀要」が創刊されて以来、発刊を重ねて、この度第5巻を刊行するに至りました。

掲載される論文の数も徐々に増えて、今回は原著論文や症例報告などを合わせて14編の論文が掲載されています。「高松赤十字病院事業運営5カ年計画（平成26～30年度）」の重点項目の一つとして「院外への情報発信の推進」を掲げ、職員の皆さんには折に触れて学会発表や論文発表を奨めてきましたが、本誌面を通じての情報発信もその一環であると認識しています。

掲載された14編はいずれも興味深い論文ばかりです。まずは当院の職員の皆さんに是非読んでいただきたいと思います。個々の論文についての解説は致しませんが、診療科、看護部、放射線科部、検査部、リハビリテーション科部、医療安全推進室など多くの部門・部署から実地の診療・看護の現場の経験に根ざした意義深い論文が発表されています。日常の業務にすぐさま役立つ知見を含んだものばかりです。関連する部署に是非フィードバックしていただきたいと思います。今回は研修医からも3篇の症例報告がされています。研修医の皆さんにとってはおそらく初めての論文執筆であろうと思いますが、査読者からの質問や指摘された事項にしっかり対応して、最終的に掲載を許可されるまでの過程で多くの得るものがあったのではないかと推察します。これを期に今後も日常の診療とともに学会発表や論文作成にも意欲的に取り組んでいただきたいと思います。

医師のみならず全ての職種の職員の皆さんには今後も『高松赤十字病院紀要』はもちろんのこと、和文・英文を問わず、国内外を問わず、それぞれの職種・領域の専門雑誌にも積極的に発表されることを願っています。